

資料4-4
令和2年度第2回
事業評価委員会

西東京都市計画道路3・4・9号線 (西東京市北原町三丁目～ 同市西原町四丁目)

令和2年8月21日(金)

建設局道路建設部

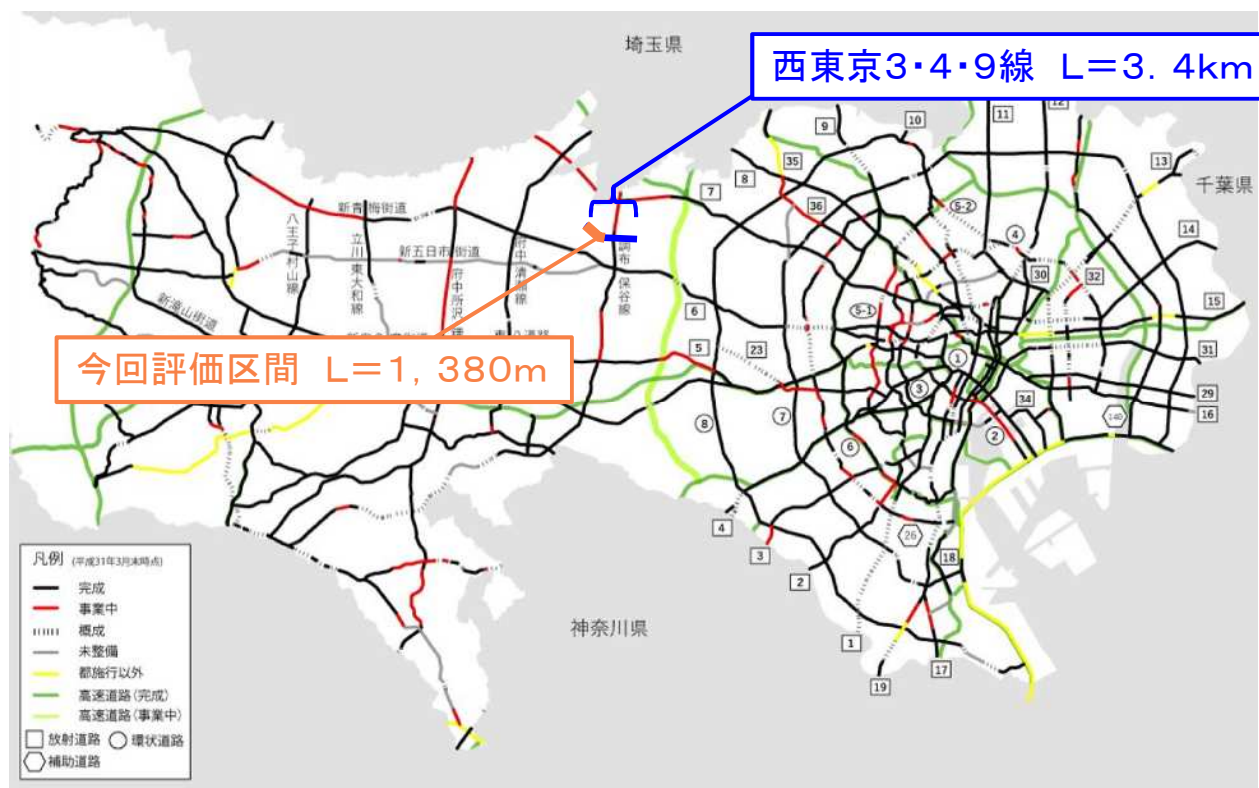
目次

1. 事業概要	1
2. 社会経済情勢等の変化	8
3. 事業の投資効果	12
4. 事業の進捗状況	18
5. 事業の進捗の見込み	22
6. コスト縮減等	23
7. 対応方針(原案)	24

1. 事業概要

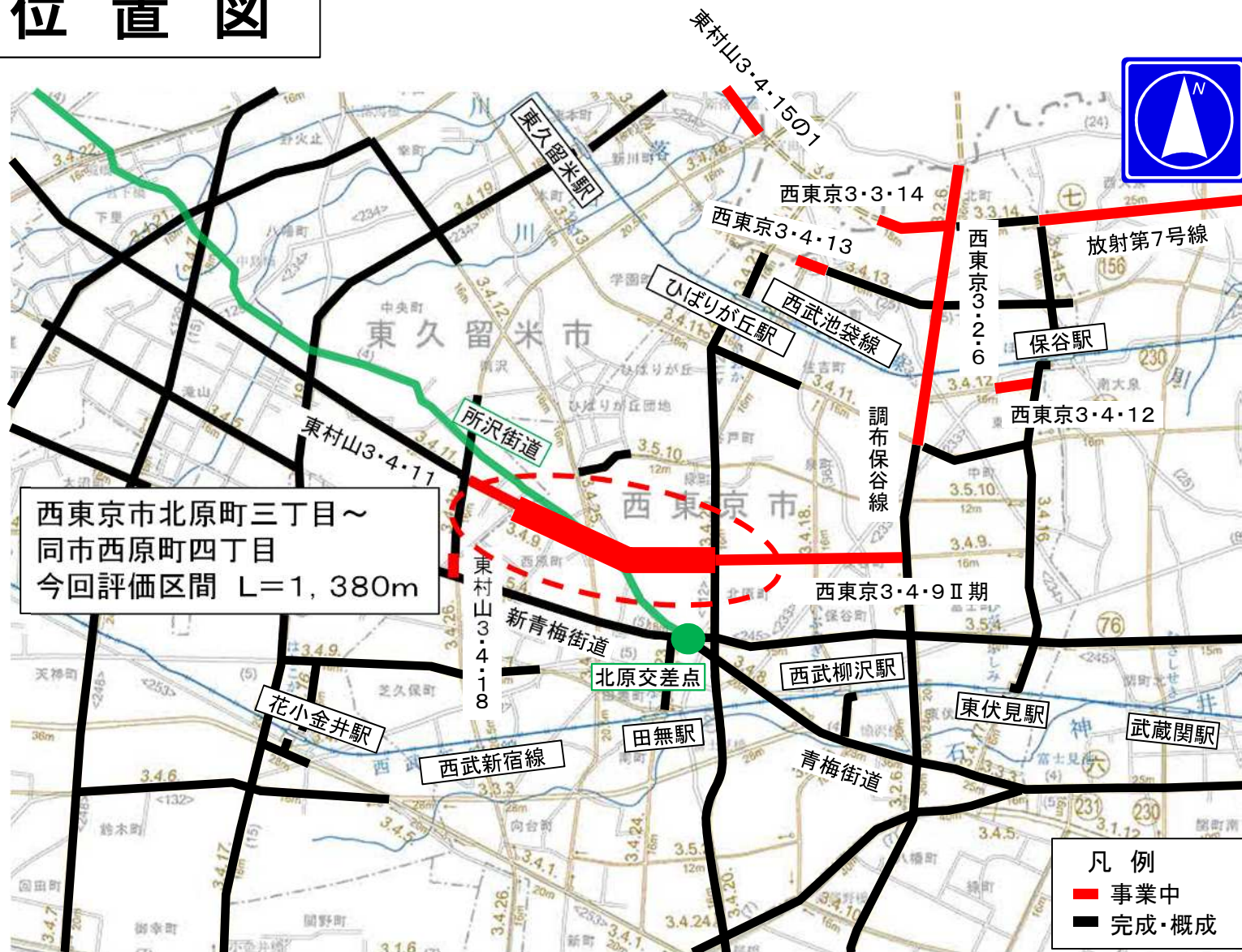
全体図

・西東京3・4・9号線は、西東京市中町四丁目を起点とし、調布保谷線と交差し、西東京市北原町二丁目に至る延長約3.4kmの都市計画道路であり、今回評価区間は西東京市北原町三丁目から同市西原町四丁目までの延長約1,380mの区間である。



1. 事業概要

位置図



1. 事業概要

事業期間

平成23年度～令和5年度

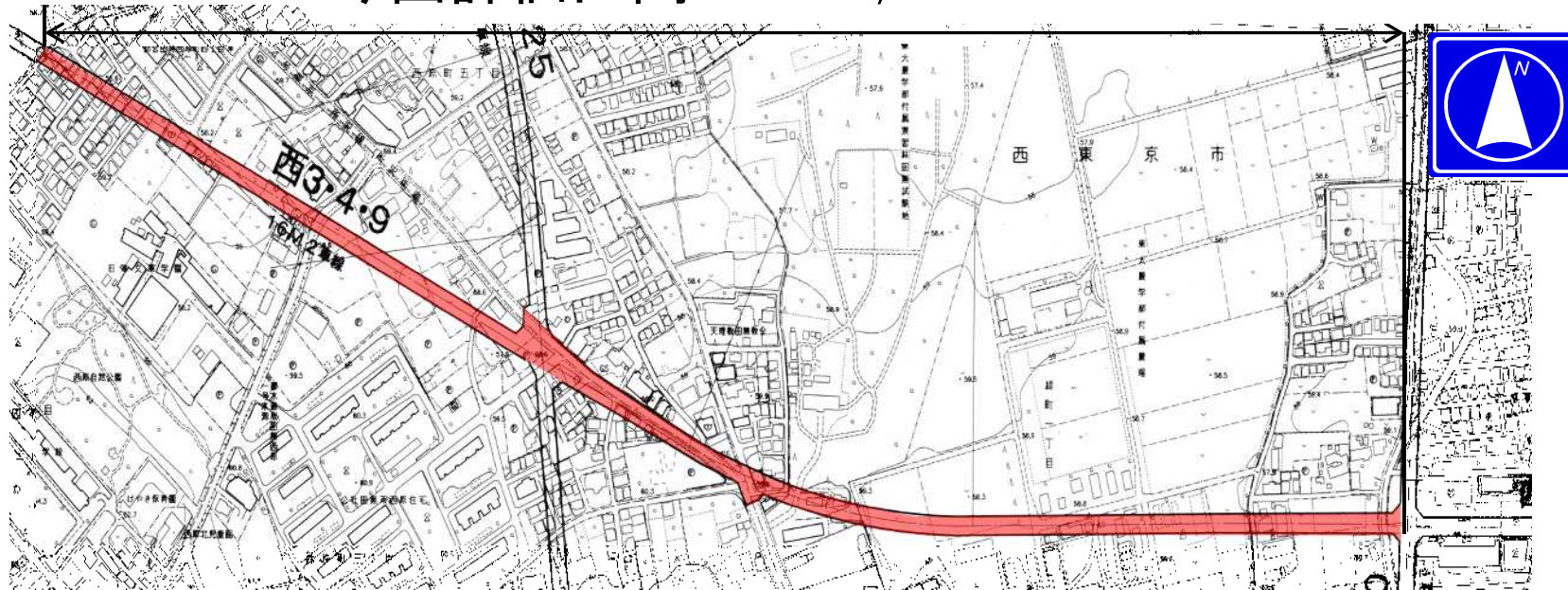
事業の概要

本事業により、**調布保谷線と接続する新たなネットワーク**が形成され、所沢街道の**交通の円滑化**や北原交差点の**渋滞緩和**が図られるとともに、地域の**安全性、利便性や防災性の向上**の効果が期待できる。

1. 事業概要

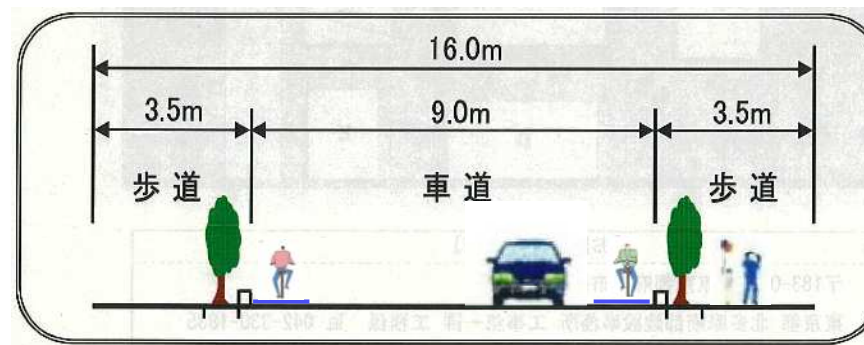
平面図

今回評価区間 $L=1,380\text{m}$ $W=16\text{m}$



横断図

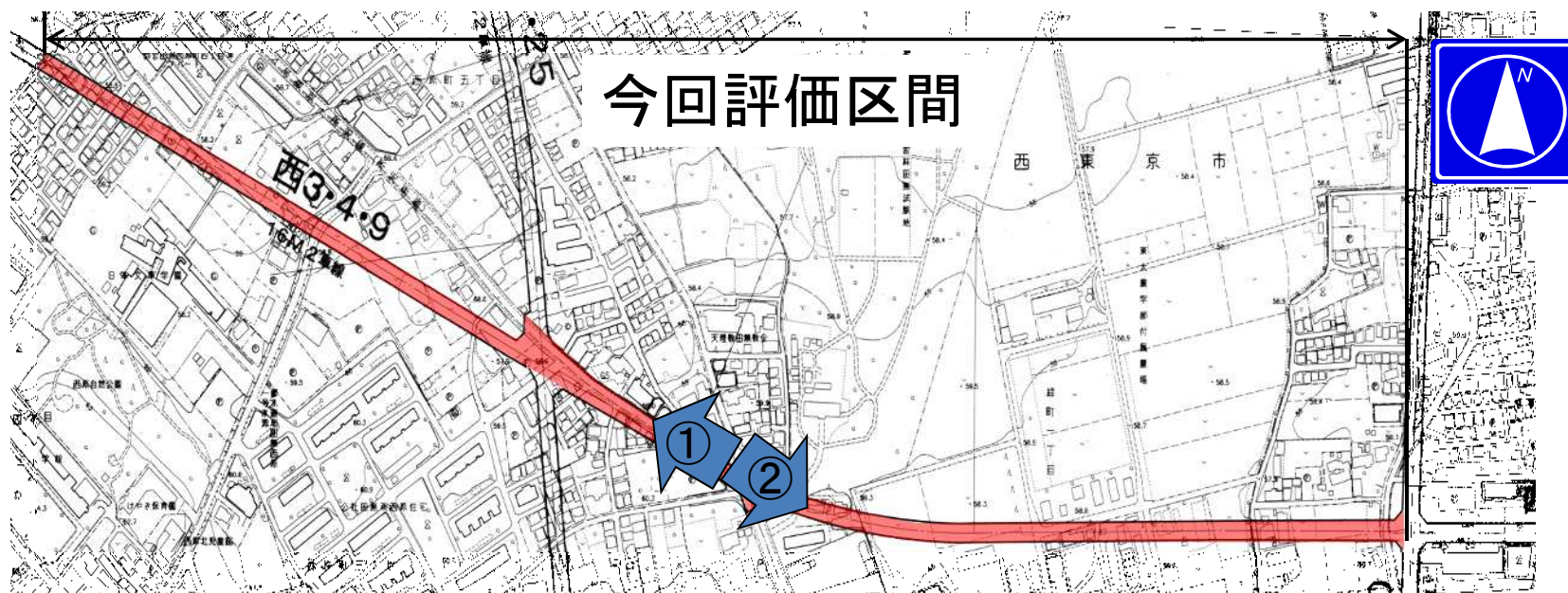
標準横断図



1. 事業概要



1. 事業概要



1. 事業概要

経緯

年度	計画等
昭和42年5月23日	都市計画決定
平成23年9月28日	事業認可取得
令和6年3月31日	事業認可期間

2. 社会経済情勢等の変化

社会経済情勢の変化

本路線周辺の平成27年度の現況交通量は、平成22年度と比較して、横ばいとなっている。

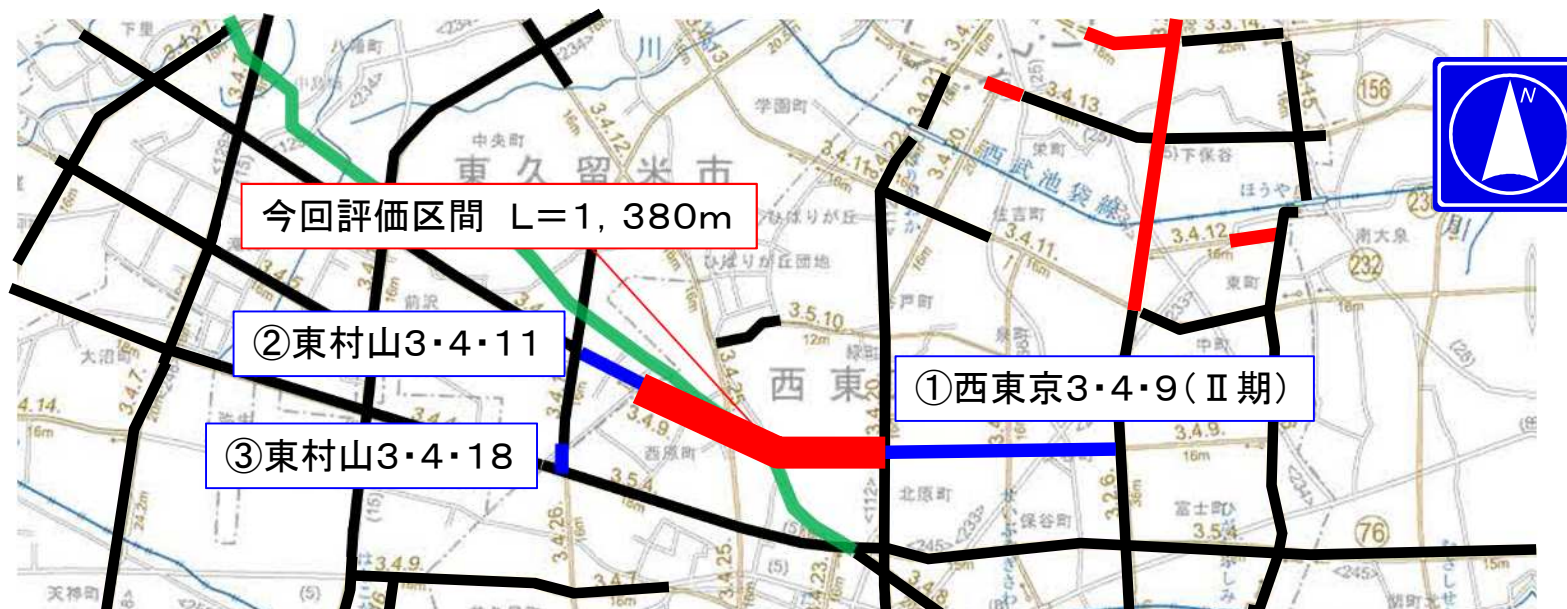
現況自動車交通量【所沢街道】(道路交通センサスによる)

平成22年度: 10,340台/12h、平成27年度: 9,482台/12h



2. 社会経済情勢等の変化

関連する他事業等の進捗状況の変化



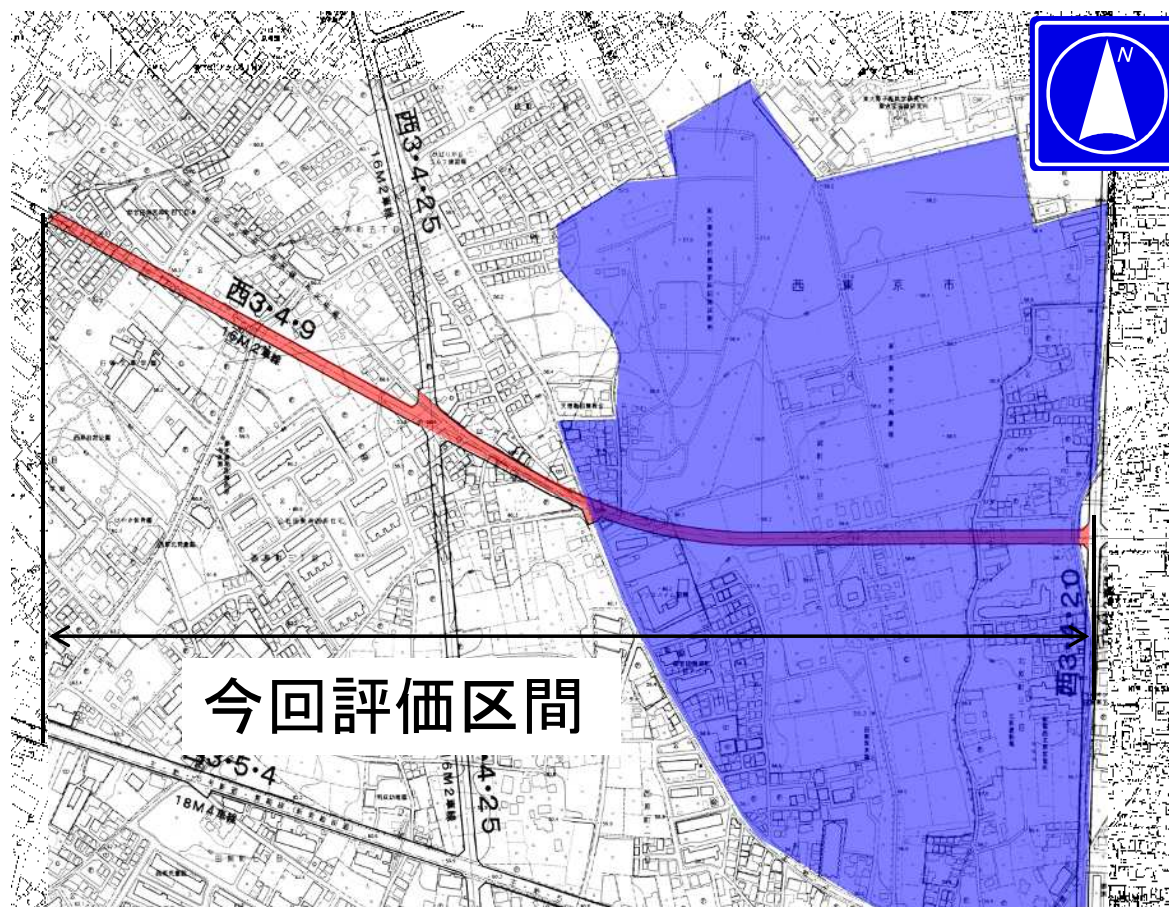
	路線名	着手	用地	工事
①	西東京3・4・9 (Ⅱ期)	平成26年度	32%	未実施
②	東村山3・4・11	平成6年度	100%	実施中
③	東村山3・4・18	平成10年度	100%	実施中

凡例	
■	事業中
■	事業中(周辺事業)
■	完成・概成

2. 社会経済情勢等の変化

関連する他事業等の進捗状況の変化

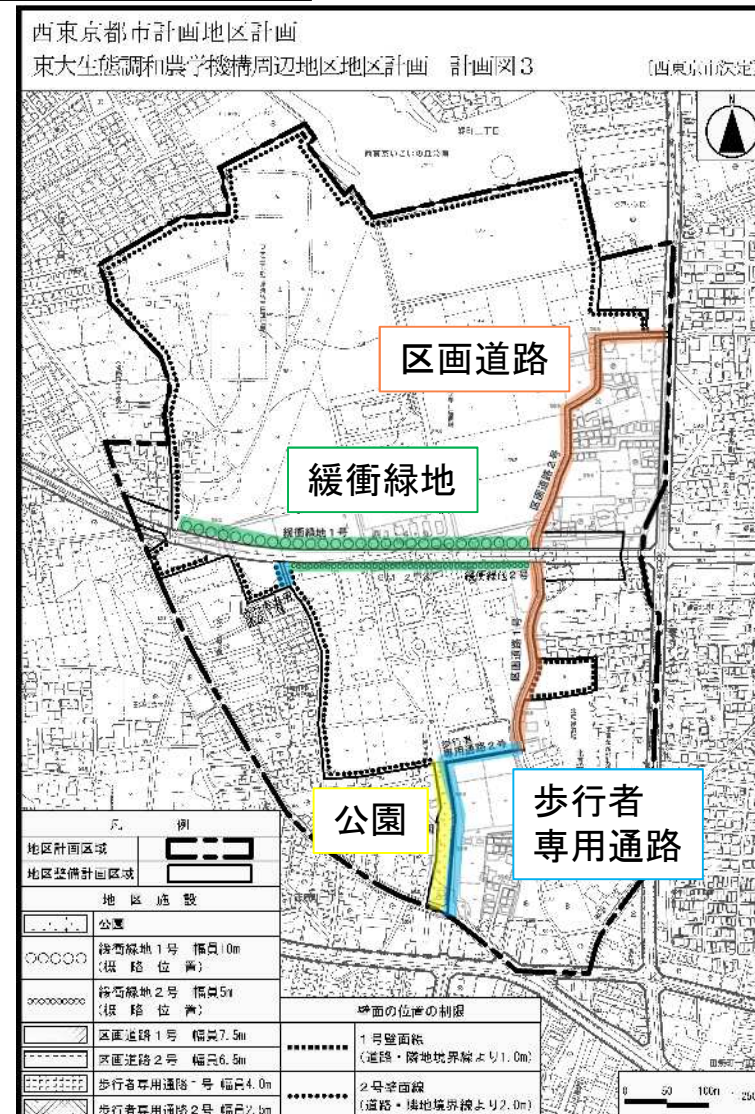
東大生態調和農学機構周辺地区計画が平成27年度に告示



2. 社会経済情勢等の変化

関連する他事業等の進捗状況の変化

東大生態調和農学機構周辺地区計画では既存のみどり豊かな空間を確保すること等を目標に建築物の高さや形態、色彩の制限などを定めている。



出典：西東京市HPより

3. 事業の投資効果

定量的効果

【便益(B)の算定】

現在価値化総便益	145.5億円
走行時間短縮便益	130.5億円
走行経費減少便益	13.0億円
交通事故減少便益	2.0億円

【費用(C)の算定】

現在価値化総費用額	84.4億円
工事費	13.1億円
用地費	65.9億円
維持管理費	5.4億円

※費用便益分析マニュアル(国土交通省 平成30年2月)に基づき分析

【費用便益比(B/C)の算定】

$$\underline{B/C = 1.7}$$

3. 事業の投資効果

定性的効果

<交通>

- ・交通渋滞の解消
- ・物資流動円滑化への寄与
- ・バスの定時性
- ・迂回交通の減少

<景観>

- ・都市景観の向上

<くらし>

- ・公共施設へのアクセス向上
- ・土地利用の転換・高度化

<防災>

- ・緊急車両の走行
- ・災害時の避難路の確保
- ・延焼遮断

<安全>

- ・交通事故の減少
- ・バリアフリー化
- ・自転車や歩行者のための空間確保

3. 事業の投資効果

定性的効果

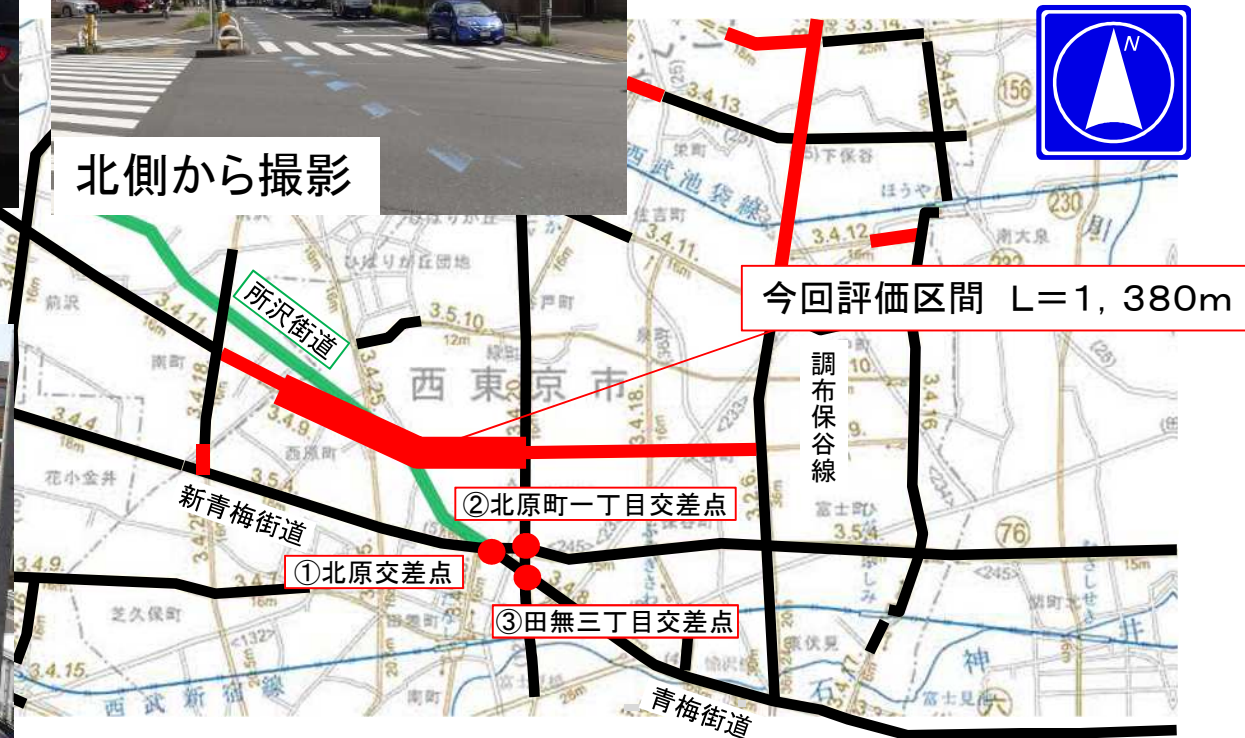
＜交通＞ ・交通渋滞の解消
所沢街道の渋滞が解消される



3. 事業の投資効果

定性的効果

<交通> ・交通渋滞の解消
渋滞箇所である北原交差点などの渋滞が解消される



3. 事業の投資効果

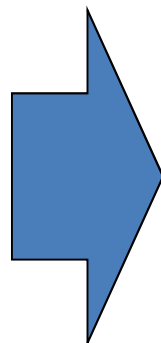
定性的効果

- <景観> ・都市景観の向上
- <安全> ・自転車や歩行者のための空間確保

電線共同溝の整備や自転車レーンを設置することにより、都市景観の向上や、自転車や歩行者のための空間創出が見込まれる。



西東京3・4・9 現在の状況



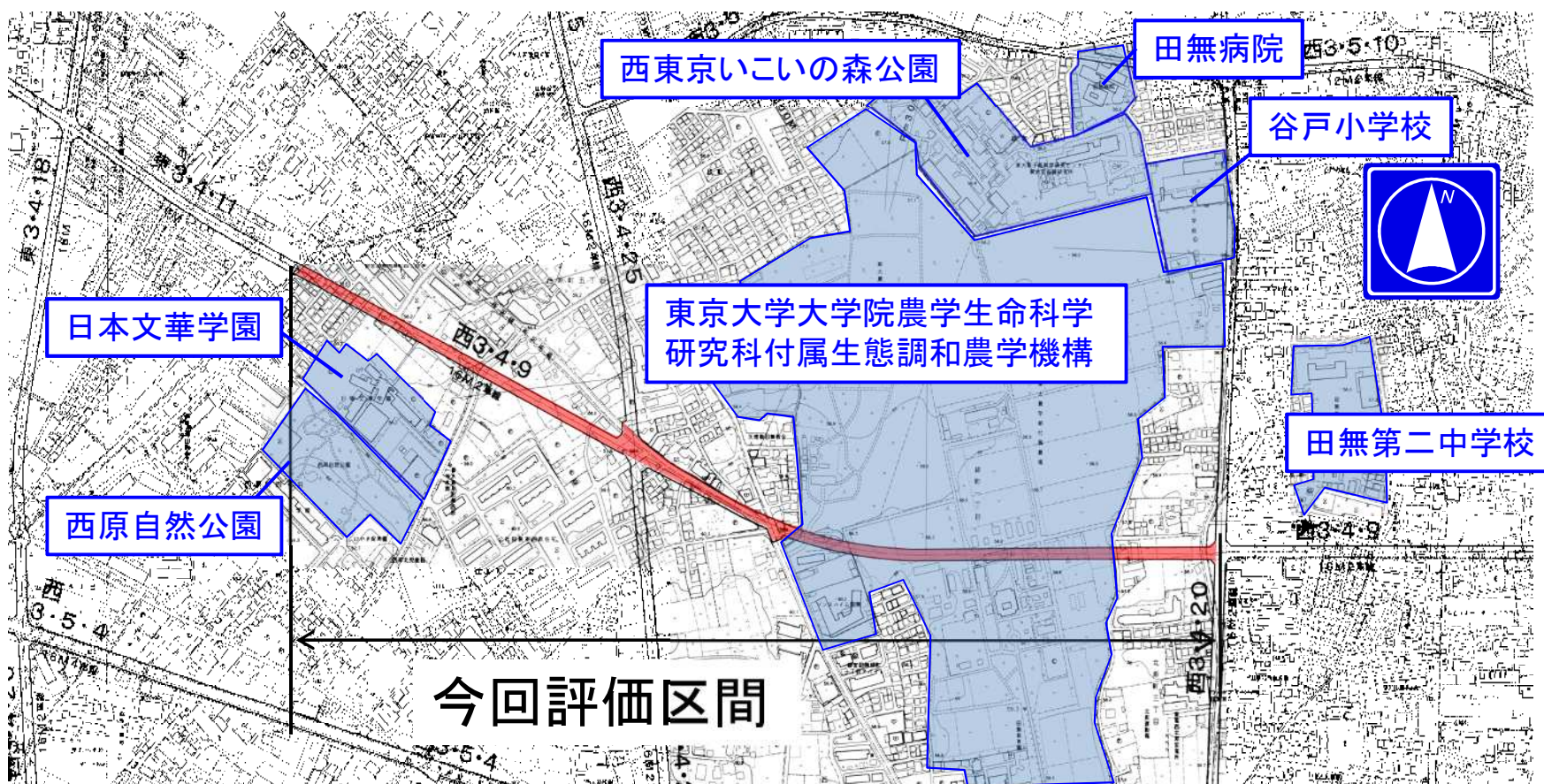
無電柱化・自転車レーンのイメージ
武蔵野3・4・24:幅員16m、歩道幅員3.5m

3. 事業の投資効果

定性的効果

- <くらし> ・公共施設へのアクセス向上
- <防災> ・災害時の避難路の確保

田無第二中学校や西原自然公園などへのアクセス性が向上するとともに、東京大学農学機構や西東京いきいの森公園は、西東京市の広域避難場所に、田無第二中学校や日本文華学園等は避難施設に指定されているため、災害時の避難路が確保される。



4. 事業の進捗状況

事業費の執行状況

(R1年度末時点)

	用地費	工事費	合計
全体事業費	5,540百万円	1,132百万円	6,672百万円
執行済額	4,796百万円	602百万円	5,398百万円
執行率	86.6%	53.2%	80.9%

用地取得状況

取得予定面積 (A)	既取得面積 (B)	用地取得率 (B/A)
18,601m ²	15,655m ²	84.2%

4. 事業の進捗状況

一定期間を要した背景等

- ・多くの地権者から事業への理解・協力を円滑に得られたが、一部権利者からの協力を得られておらず、用地折衝に時間を要している。

事業の進捗状況・残事業の内容等

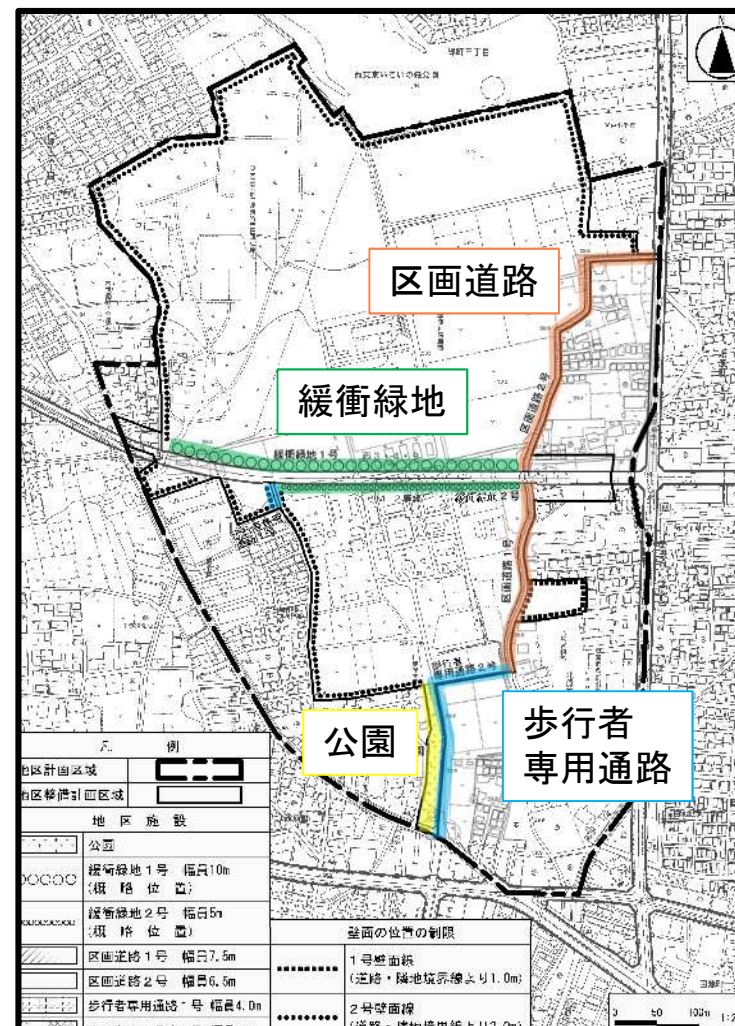
- ・すでに大部分の用地を取得しており、周辺住民の当該事業に関する理解も得られている中で、残る地権者との折衝を継続している。
- ・起終点部及び用地取得済箇所への街路築造工事及び電線共同溝設置工事等を行っていく。

4. 事業の進捗状況

事業の進捗状況・残事業の内容等

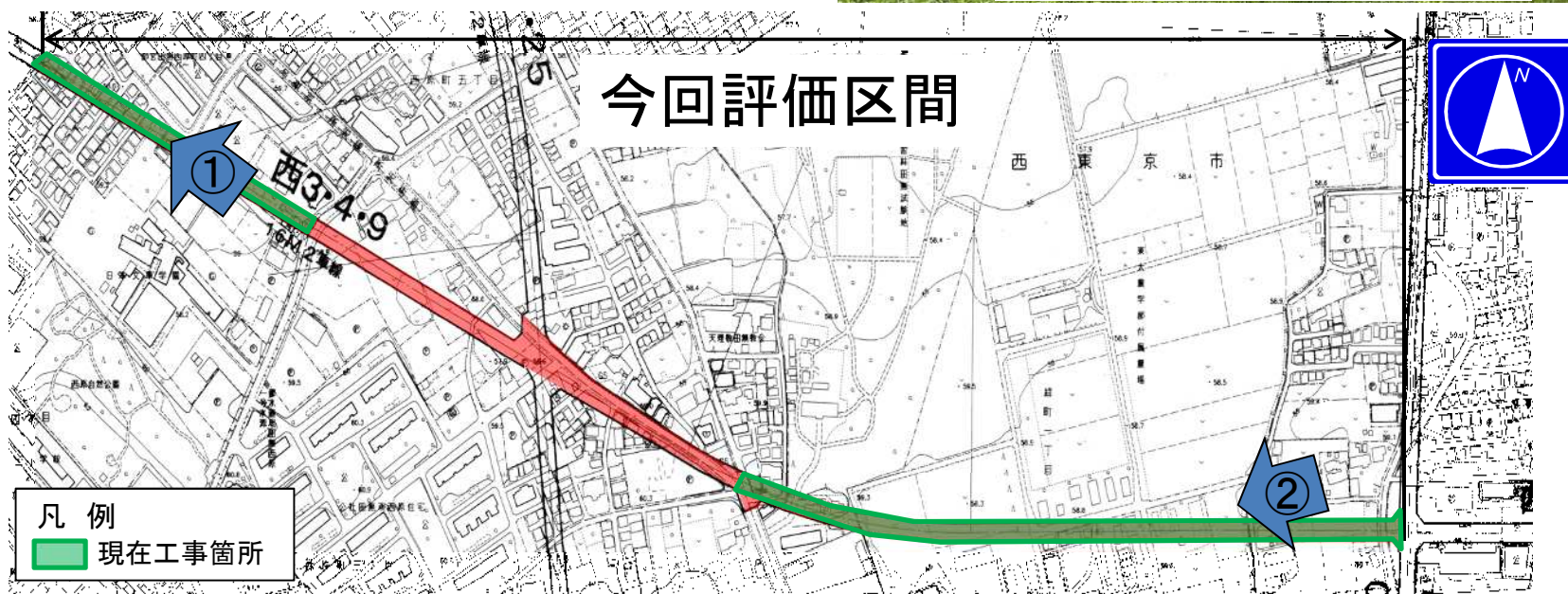
・「東京における自然の保護と回復に関する条例」に基づいて、環境に配慮した計画としている。

- 樹高が高くなる樹種の選定
(緑のシェルターを設置)
- 照明光の拡散防止対策
- 施工機械は低騒音・低振動、
色彩等にも配慮
- 昼間施工
- オオタカのモニタリング調査



出典：西東京市HPより

4. 事業の進捗状況



5. 事業の進捗の見込み

今後の事業の進捗見込み

引続き、用地取得を進める。

用地取得箇所より順次、排水施設設置工事、電線共同溝設置工事を進める。



中央部用地取得状況

6. コスト縮減等

新工法、事業手法、施設規模等の見直しの可能性

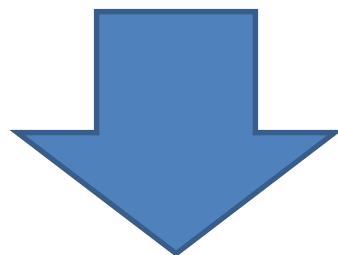
- ・一般的な街路築造工事であるため、施工にあたって、新工法等による新たなコスト縮減の可能性は極めて少ない。
- ・平面の街路築造工事であり、工事も進捗していることから、事業手法、施設規模等を見直す可能性はない。

コスト縮減の取組

- ・施工にあたっては、建設発生土の再利用や再生材の使用を行っていく。

7. 対応方針(原案)

- 本事業により、調布保谷線と接続する新たなネットワークが形成され、所沢街道の交通の円滑化や北原交差点の渋滞緩和が図られるとともに、地域の安全性、利便性や防災性の向上の効果が期待できる。
- 中止の場合は、事業効果を発現できないだけでなく、これまでの投資に見合った整備効果も得られなくなる。



継 続